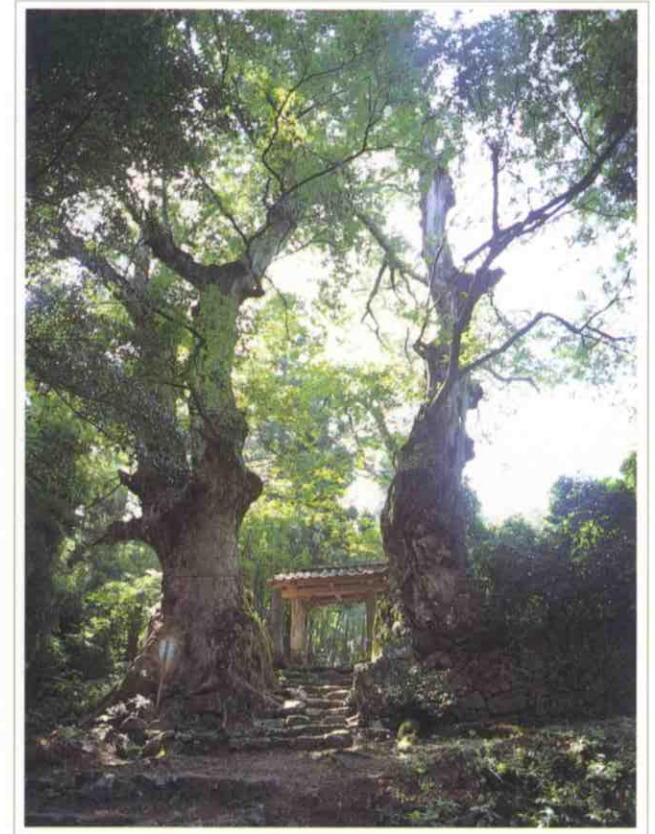


湖北は巨木・名木の宝庫



①夫婦ケヤキ 余呉町 雲山寺 胸高周囲/6.2m

高時川流域は、県内でも有数の巨木・名木の宝庫です。何千年という時の流れを貫いて、人知れず私たちの生命を支え続けてきた木々……。その代表である湖北の巨木・名木について、樹木医の第1期生である金森亮太郎さんにお話をうかがいました。



②上丹生大ケヤキ 上丹生 胸高周囲/9.1m



③ハナノキ 高月町 赤分寺(観音堂) 胸高周囲/0.6m



④スギ 高月町 日吉神社 胸高周囲/7.6m



⑤タブノキ 湖北町山本 朝日神社 願の木 胸高周囲/2.6m

人の命を支えている樹木

「木々の茂った山には水を浄化する機能が秘められています。二酸化炭素を吸って酸素を出してくれます。つまり、樹木は私たちの生活に必要なきれいな水と酸素を創り出す重要な役割を担っているのです。」

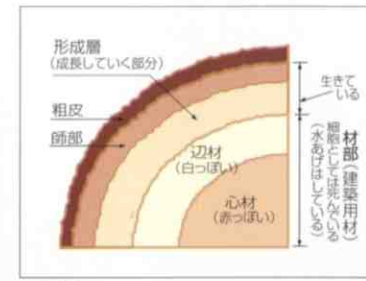
金森さんは木々の役割を一言でこう述べます。

「樹齢五〇年の樹木一本で一年間に核家族二戸(六人)が必要とする酸素を創り出しています。病院で行われる酸素吸入の金額に換算すると、二四〇万円にも相当するんですよ。」

「寿命は無敵」と言われる木も、病気をしたりけがをしたりします。ほおっておくと枯れてしまいます。平成三年、それらを治す目的で樹木医という資格が誕生しました。

樹木の病気? 木は図1のような構造をしています。生きていて成長しているのは周辺部だけ。真ん中は死んだ組織です(ご存じでしたか?)。大木が病気になるのはほとんどこの部分であり、割れ目から入った雨水などで材部が腐り、空洞になって倒

れてしまうのです。この腐った部分を取り去り、殺菌剤を塗って空洞に補強材を入れウレタンを充填、開口部にパテや樹脂を塗り雨水が入らないようにしてやるのが主な治療です。



<図1>

湖北の巨木・名木

「湖北、湖北東部は特に巨木の多い地域です。理由はまず花崗岩の多い南部と違い、中古生層の地域が多く、概して肥沃なこと。山が深く人の手が加わりにくかったこと。そして、地域の人たちが木を大切にしたことでしょうね。」

金森さんがこれまで治療したり、診てきた巨木名木のいくつかを紹介しましょう。

まず、湖北の巨木で最も多いケヤキ。代表格は余呉町・上丹生野神の大ケヤキ(写真②)でしょう。県の自然記念物に指定されており、樹齢八〇〇年、高さ三十三m、胸高周囲九・一m。滋賀県でも一、二を争う巨大なケヤキです。

余呉町・菅山寺の夫婦ケヤキ(写真①)

も有名です。菅原道真のお手植えと伝えられ、樹齢一〇〇〇年とも言われていますがかなり元気をなくしています。

スギでは浅井町・高畑にある波久奴(はくぬ)神社の社頭に大スギがありました。三年前の日照りで枯れたので、最近伐られました。年輪を読むと樹齢六〇〇年、よく長生きして氏子を見守ってくれました。

湖北西部・マキノ町の清水(しようす)の桜(樹齢三〇〇年、高さ一六m、胸高周囲六・四m)も金森さんの手で生き返りました。これは水上勉の小説『桜守(さくらもり)』の主人公となった桜で、三〇〇年ほど前、鳥が墓地の中に江戸彼岸桜のタネを落としたものが育ったと伝えられています。平成三年に枯れかけ、三十四年かけて治療したところ、今年は見事な花を咲かせ

るようになりました。木之本町・黒田字大沢のアカガシ(写真⑥)(樹齢五〇〇年、高さ一五m、胸高周囲六・九m)は、地元では野神として信仰されています。大阪万博のときに定められた「新日本名木一〇〇選」の一つ。昔から「ガンになるとこのアカガシの木片を煎じて飲めば効く」との言い伝えがあります。一昨年大手術を行い腐朽部の治療がなされました。

手を当てて木を感じてみて下さい

私たちが巨木・名木を訪れたときに、木どのように「交流」すればいいのでしょうか。眺めて、写真を撮って、それで終わりではあまりにももったいないような……。

「私自身は治療を始めるとき木の形成層(図1参照)をなめる癖があるんです。それで、木の元気が分かるからです。皆さんが木と交流されるには、上丹生の野神のケヤキを治療しているときに出会ったある中年夫婦を手本にされてはどうでしょうか。夫婦で滋賀県中の巨木・名木を見て回っているという二人は、しばらくの間木に手を当てて目を閉じていました。木の息吹の素晴らしいに感動したようです。『今日まで生きていてくれたんだなあ。ありがとう』って。木は黙っています。でも、言いたいことがあるはず。一〇分でも一五分でもいいです。じつと木に手を当てて、自分の心に問いかけてみてはどうでしょうか。」

樹木の年齢はどうして調べるの

木の年齢は年輪を数えればいい……では、生きたままの木の年齢はどうして数えるの? 答えは2つ。小さな木なら成長錐と呼ばれる円筒状のキリでモミ出し、その部分の年輪を数えます。大きな木の場合は、木に含まれる炭素の減り具合を特別な装置で調べて判定する方法があります。



樹木を調べる道具



【金森亮太郎さんプロフィール】
1927年5月生まれ。滋賀県森林センター所長、滋賀県林務課長などを歴任後、浅井町森林組合で造林に従事。平成3年、樹木医の国家資格誕生と同時に、第1期生75人のうちの一人となる。現在滋賀県樹木医会長。



⑥アカガシ 木之本町 黒田 胸高周囲/6.9m